

---

# 夏の出来事

中畑 恵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の出来事

### 【Nコード】

N6470G

### 【作者名】

中畑 恵

### 【あらすじ】

少年はある夏の日、音楽室から聞こえてくる音色を聴いた。その音色が気に入った少年はいつの間にか顔も、名前も、男か女かさえわからない音色を奏でている人に恋に落ちていた。

野球部の一年生、夏休みは毎日素振りかジョギング。何時ボールを打たしてくれるかもわからずただひたすら先輩達からこき使われる日々。正直言ってもう限界だった、この厳しさに耐えかねて幾人かは部活を辞めた。俺も一時期はそんなことも思ったが他に入る部活もなく、かといって帰宅部も嫌だった。そんな渦巻いた気持ちでいたら続けている俺は今日も学校の周りをジョギングだ。

「ああ。熱い」

口に出しても意味がないことはわかっていても、出さないと言っただけじゃない。もう何周目になっただろうか。昇降口を回り特別教室棟にさしかかったとき、遠くから綺麗な音色が聞こえてきた。音の出所を探すとそこは最上階の音楽室だ。俺は立ち止まり、音のする方を見上げる。ちょっとした間立ち止まって聴いていると後ろから同じ部活のヤツが息を切らし、汗だくになりながら走ってくる。それは俺に気づくと今までだらしなく開けていた口を引き締め、眉を上げいかにも怒っているという感じで叫んでくる。

「おい、お前何サボってんだよ。先輩に言い付けるぞ」

何時の時代のガキだと思い、そいつに怒りさえ覚えながら「ゴメン、ゴメン」と苦笑を浮かべて話しながら走り出す俺は、その音色が気になって仕方なく、何度も後ろを振り向いては音楽室を見詰めた。

次の日も俺は走る。昨日と同じ時間帯に同じ所を走るとまたあの綺麗な音色が響いていた。心地の良い音色はたまに音程を外す。それでも曲を奏でるそれが凄く気に入った。それから毎日そこを走る。部活の時間がずれた日は早めに来て、そこで音色を聴いていた。何の楽器かも、誰が奏でているのかもわからない。でも、俺はその音色に恋していた。

\*

今日も部活の時間がずれた。早めに来た俺はいつもと同じ木の陰に隠れてそのうまいとも言えない曲を聴いていた。すると俺を呼ぶ声があるので振り向く。そこには大きな荷物を持った音楽の先生が窓の向こう側でこつちを向いて立っていた。俺が近寄ると

「これを音楽室のピアノの上に置いといてくれない？私これから会議なのよ」

焦って俺に箱を預ける先生に「わかりました」と営業スマイルをばらまいて以外と重かった箱を音楽室まで運ぶ。俺はその時、期待に溢れていた。音楽室には俺の好きな音色を奏でている人が居る。気になっていたことが今日わかるのだ。

階段を息を切らしながら最上階まで登り、重い箱を落としそうになりながら廊下を歩く。一番奥の教室が音楽室だ。近づくにつれ、音が大きくなる、1回深呼吸をしてドアを押す。その音に気づいたのか音が止む。こちらを向いたのは知らない女子生徒の顔、その手にはクラリネットが握られていた。タイの色が1年とは違い上級生だと言ったことが見受けられる。俺は慌てて中に入ると荷物をピアノの上に置く。しれっとして帰ろうとも思ったが話しかけずにはいられなかった。

「いつも、此处で演奏してますね。好きなんですか？」

いきなり話しかけられた事にびっくりしたのか目を見開くが次の瞬間にはニコツと笑い、

「ええ、好きですよ」

と答えてくれた。それでも次には沈黙が流れた。それでも俺は良かった、なぜなら彼女と話せたからだ。本当ならば1分も経ってい

\*

\*

\*

ない沈黙は、10分も20分にも思えた。ふいに彼女が口を開く。

「今日もいい天気ですね。」

窓側を眺める彼女がとても綺麗で、またこっちを向いてニコッと笑う。

それは俺が恋に落ちた夏の日の出来事・・・

～END～

(後書き)

「初恋」を意識して書いてみたらこうなってしまうました。何となく名前も知らない子に恋をする。そんな切ない感じを書いている途中で出してみたくなったりしました。

ホントはラストもっととハッピーエンドな感じで終わるつもりだったのですが気づいたらよくわからないオチになってた。

ここまで読んでくれた方々に感謝です！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6470g/>

---

夏の出来事

2010年12月18日14時35分発行